AY2027

よくある質問

Q1. 大学院選びのポイントを教えてください

自分の研究テーマと研究方法を一定明確にした上で、教員の研究テーマや研究方法に注目しましょう。山にも複数の異なる登山道があるように、自分が研究したいテーマと近いからといって、調査や分析のやり方まで同じとは限りません。逆に研究テーマがまったく違っても、研究方法を中心に指導を受けることができる場合もあるのです。

Q2. 事前の研究室訪問は必須ですか？

社会学研究科では必須ではありませんが、希望する研究テーマについて指導を受けることが可能かどうか、出願前に必ずご確認ください。指導希望教員に研究の構想や計画などについてあらかじめ相談されることを、強くおすすめしています。研究室訪問による面談に限らず、メールやオンラインビデオ会議などを利用した相談を実施する場合もあります。

Q3. 指導を希望する教員への連絡方法を教えてください

産業社会学部生の場合には、学部の「履修・登録の手引き」に教員のメールアドレス一覧を掲載していますので、メールで直接連絡をとってください。他学部生や学外の方は、社会学研究科の教員紹介のページを確認ください。メールアドレスが掲載されていない場合は、産業社会学部事務室の大学院担当までご相談ください。事前相談の際には、研究計画が具体的に分かる資料（出願書類に添付予定の計画書など）をご準備ください。

Q4. どういった入試問題が出題されますか？

過去問題の配布は行っていませんが、入試試験問題は立命館大学大学院入試情報 Web サイトで公開しています。また、社会学研究科 Web サイトにて受験にあたっての参考文献などを掲載していますのでご確認ください。

入試概要
奨学金・研究助成制度
学費
カリキュラム
進路・就職
学位論文・研究報告
院生、教員、修了生 インタビュー VOICE
つづくつながる 社会学
教授×4名の 院生座談会
キャリアパス支援

社会的課題に向き合う実践の場にようこそ！

Curiosity toward Sociology!

〈お問い合わせ先〉※大学の一斉休業期間中は、電話・窓口・メールでの質問などは受け付けられません。

立命館大学大学院 社会学研究科
（立命館大学産業社会学部事務室）
〒603-8577　京都市北区等持院北町 56-1

TEL：075-465-8184
E-mail：shaken1@st.ritsumei.ac.jp
http://www.ritsumei.ac.jp/gss/　ホームページはこちら ▶

RITSUMEIKAN UNIVERSITY

Ritsumeikan University
Graduate School of Sociology

立命館大学大学院 社会学研究科

Features 01 学際性豊かな4領域

・現代社会研究領域　・スポーツ社会研究領域
・人間福祉研究領域　・メディア社会研究領域

Features 02 複数指導体制

前期課程は 1 回生春に、研究領域基幹科目の担当教員（複数名）が副指導の役割を担い、秋に副指導教員を決めます。後期課程は 1 回生春に副指導教員を決めます。

Features 03 系統的･網羅的なカリキュラム

社会学の基礎的な研究手法や量的・質的な調査・分析能力から、研究領域ごとの専門的な知識やスキルを習得できます。

Features 04 進路就職実績

大企業、地域に根差した企業、教員、研究所、社会調査士・専門社会調査士資格を生かした職種

Features 05 多彩な奨学金、学費免除制度

多彩な奨学金、学費免除制度があります。本学産業社会学会の「学会等参加補助制度」「院生共同研究会助成制度」など、研究科独自の奨学金もあります。

RITSUMEIKAN UNIVERSITY

Ritsumeikan University Graduate School of Sociology



メディア社会研究領域　Y.Nさん

研究テーマ・内容

美容をめぐる情報コミュニケーションを対象に、SNSというメディア環境の特性に着目しながら質的に分析し、現代社会における女性の外見表象や価値観の形成に対して、メディアがもたらす影響を研究しています。

1日の過ごし方　授業が3コマの日（多い日）

10:00 究論館で自習（先行研究のレビュー・その他の勉強）
- 先行研究を読み、研究の意義や新規性を確認しながら、資料整理や分析を進めます。

13:00 大学院の講義等
- 発表担当の際は資料を準備します。
- 少人数の授業で議論を行い、課題に対する理解を進めます。

15:00 空きコマ（以学館・図書館・究論館などで研究や作業）
- 課題や語学学習・研究等を進めます。
- 長い授業日に備えて軽食や編み物等で気分転換することもあります。

17:00 大学院の講義
- 研究構想や関心のある論文を紹介し、教員および院生同士で、フィードバックを行います。
- 院生は少数のため、他学生との距離も近く、協力し合えます。

21:00 帰宅
- 食事や急ぎの課題等を済ませ、楽器演奏や映画などの趣味を楽しんで過ごします。

1日の過ごし方　授業が少ない・バイトがある日

9:30 究論館で自習（先行研究のレビュー・研究構想・その他の勉強）
- 先行研究を読み、研究の意義や新規性を確認しながら、資料整理や分析を進めます。

10:30 学部生向け授業のTA
- 学部生向けの授業を補助します。

13:00 究論館で作業 or 自宅に戻る or 買い物
- 研究や課題等を進めたり、楽器演奏や料理等を楽しんだりしています。
- 春学期はお香やパンの探索にハマっていました…。

16:00 洋菓子店でアルバイト
- 接客のアルバイトをしながら、研究以外の経験や人との交流も大切にしています。

21:00 帰宅
- 食事や急ぎの課題等を済ませ、映画・ドラマや編み物等の趣味を楽しんで過ごします。

修了生の活躍

2022年度修了　現代社会領域所属　C.Mさん

院生時代

男性がジェンダー問題に関心をもつきっかけは何なのかを明らかにするために、近年増加しているジェンダーに関する講義を受講する男子大学生に着目し、ライフストーリーインタビューを実施しました。

現在

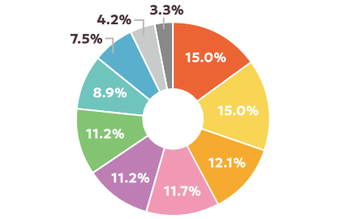
地方のシンクタンク（研究所）で研究員として働いています。仕事の内容としては地方自治体が実施する都市計画や観光、少子化対策などに関わる調査に携わっています。特に少子化対策においては、ジェンダーに関わる問題がその要因となっている場合もあり、大学院時代に得た知識や経験が活かされています。

大学院での学びと仕事の関係性

行政計画の一部は質問紙調査を行うことが基本であり、併せてインタビュー調査を実施することも多いので、大学院で実施した調査の経験が仕事に直結しています。また、報告書の作成には論文執筆と同じように、これまでの調査をもとに新規性を見つけ、論理立てて説明するスキルが必要なので、修士論文を執筆するのにとてもよく似ています。その他にも先行研究として他の論文を参照することも多いので、論文探索能力も活かされていると感じます。

主な就職先

【前期課程（2015~2025年度）】



【後期課程】

大学・研究機構等の専任教員・専門研究員、医療機関・民間企業の事務職員

日本学術振興会特別研究員採用者数：
2021~2025年度 毎年度1名

多彩な研究テーマ

複眼的な視座の獲得を重視しています。現代社会において生起している諸問題には多様な要因が複合的に作用しており、環境問題にせよ格差・貧困問題にせよ、問題の根本的な解決のためには多面的な取り組みが不可欠です。こうした社会的課題についての研究を深めていく際には、これまで以上に諸科学の連携や協働が求められていると言えます。本研究科を担当する教員の専門分野は、社会学を中心としつつも、経済学・経営学・政治学・社会福祉学・心理学・宗教学・建築学などの幅広い領域にわたっており、社会諸科学の協働によって多面的・学際的な理論的・実証的研究を行うことを重視しています。本研究科では、その特徴を活かして、環境、都市、産業、家族、労働、地域、消費者、文化、人間、教育、社会理論、社会病理、余暇、スポーツ、芸術、メディア、社会福祉、発達などの多彩な分野の研究を進めていくことができます。

多角的なアプローチ

量的アプローチとして、量的調査・実験・公的統計など、質的アプローチとして、インタビュー・フィールドワーク（参与観察）・文書（歴史文書を含む）・GTA（Grounded Theory Approach）・エスノメソドロジー（会話分析）・構築主義的アプローチ、学説研究として、思想家の書物、手紙、文書（歴史文書を含む）などの多角的なアプローチを学ぶことができます。

全国トップレベルの研究力

「科学研究費助成事業（科研費）」は人文・社会科学から自然科学まですべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる研究を格段に発展させることを目的とする競争的資金。大学の研究力を示す指標として注目されています。立命館大学の科研費採択は「社会学」「人文地理学」「経営学」の細目では、全国の大学でも上位の採択件数を獲得。細目別採択件数の全国順位でも、「社会学」で全国1位となっています（2024年度）。これは社会学研究科の高い研究力を表すものであり、本学全体の研究力向上にも寄与しているといえます。

約100名の在籍教員の一部の研究内容を紹介します

現代社会領域

加藤 潤三

研究分野　社会心理学

社会心理学、その中でも特に地域コミュニティに関わる個人の社会行動について研究をしています。地域の持続可能性と関連して、住民の環境配慮行動や愛着・価値観などについて研究をしてきました。ここ最近は移住や移民など『人の移動』を中心に取り組み、人口問題について考えています。

メディア社会領域

近藤 和都

研究分野　メディア論/映像文化論/文化研究

映画やテレビ、動画配信にいたる映像文化を対象として、ファンがそれらをどのように楽しんできたのかについて研究しています。リスト作りなどの独特な楽しさを作り上げる技法に焦点をあてつつ、同じファンを分断する様々な格差にも目を向けてきました。最近は「障害とメディア」に関するテーマに関心を持ち、研究の準備を進めています。

スポーツ社会領域

藪 耕太郎

研究分野　身体運動文化史/武道史/スポーツ史/体育史/余暇史

武道のグローバルな伝播の歴史を文化史や社会史的視点から研究しています。日本固有の伝統文化としての武道の普及という静的な像ではなく、文化を受容する側の社会的ニーズや時代状況に目を配り、文化の変容や混交、再解釈といった契機に着目することで、武道の海外伝播におけるダイナミズムを追究しています。

人間福祉領域

篠原 郁子

研究分野　心理学/発達心理学/教育心理学

親子関係や保育・教育の環境の中で育まれる、子どもの社会情緒的能力（自他の気持ちを考えて、関係を作り、維持していくちから）の発達、親子関係の質（アタッチメント）、子どもを育てる養育者側の心理の研究を行っています。

教員の研究活動について、さらに詳しく知りたい方はこちら

教員紹介　RESEARCH STORIES